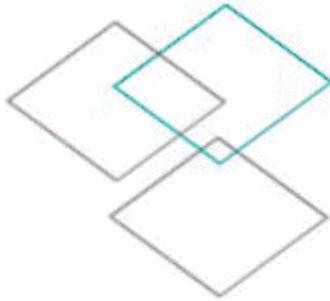


ISSN 0388-5569



LIBRARY NEWS

山口大学附属図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

2004.MAR

VOL.24
NO. 3

学術情報機構の立ち上げ・・・・・・・・・・	1	目次	本学関係教官著作寄贈図書・・・・・・・・・・	9
ハワイ大学マノア校図書館訪問記・・・・・・・・	5		トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
学生生活と図書館・・・・・・・・・・・・・・・・	7		会議等・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11

学術情報機構の立ち上げ

- 情報環境整備と「知の広場」の機能アップを目指して -

山口大学附属図書館長 **福政 修**

1. 法人化待ったなし

平成16年4月から国立大学法人山口大学がスタートします。法人化によって期待されていることは、大学がそれぞれ自主性をもって教育・研究活動をやっていくことだと思います。また、大学をオープンにして地域社会への貢献あるいは産学官の連携推進の面での活性化も望まれています。山口大学は産学連携には定評があり、研究力もなかなかのものがああります。これらの特色をさらに伸ばし、学生・教職員にとっても魅力のあるそして働きがいのある『知の広場』にしたいものです。

法人化後の山口大学では、学術情報機構をはじめとして、大学教育機構、産学公連携・創業支援機構の3機構のもとに各種学内共同教育研究組織を再編し、業務機能の向上に努めることが特色の1つとなっております。

学術情報機構は、情報をキーワードにして、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館の3施設で組織され、高度情報化に対応して山口大学の教育・研究・地域社会貢献活動を情報基盤の面から総合的に支援する中核組織と位置付けられています。

機構そのものは平成15年4月にスタートし、法人化に向けて機構の具体的な機能・運営・組織形態について協議を重ねてきました。以下にその特徴と今後の課題を述べてみたいと思います。

2. 学術情報機構 - 機能と運営

くり返しになりますが、学術情報機構は、その下部組織として、図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館を置く全学教育研究施設です。学術情報担当副学長は大学全体の情報

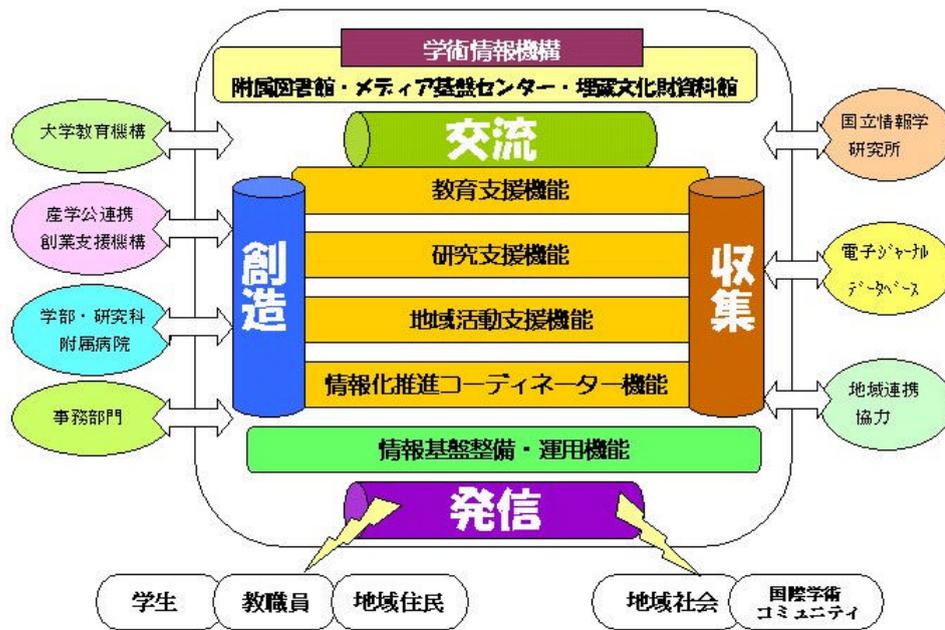


図1 学術情報機構の機能（概念図）

基盤整備、情報化推進を統括するとともに、学術情報（図書館情報やメディア情報）環境整備を担当し、学術情報機構の機構長となります。そして、機構長が、図書館長、メディア基盤センター長および埋蔵文化財資料館長を兼務します（但し、4月時点では図書館長のみを兼務）。

【機能】

担当副学長の役割および学術情報機構の下部組織を考慮すれば、機構全体としての役割・機能は図1にまとめられます。情報基盤整備の一環として、ネットワークの高度化とセキュリティー機能の強化を戦略的に進めながら、教育・研究・地域貢献活動への学術情報基盤の面から総合的に支援することが業務となります。つぎめのない（Seamless）わけへだてのない（Universal）情報環境の提供が、学生、教職員、地域市民・地域社会が交流して学びあう、『発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場』の機能アップに不可欠です。具体的な項目をいくつかあげておきます。

(1)教育支援機能

教育プログラムと連携した学習環境整備、高度ネットワーク環境を活用し、遠隔講義、e-ラーニングを含めた教育環境の整備

埋蔵文化財資料を含めた学術情報発信及び電子情報リテラシーサービス
情報機器・利用技術相談窓口の一本化
大学教育機構との相互リンク、情報基盤教育の充実・支援、マルチメディア活用教育支援体制などの充実
大学知的資料の公開

(2)研究支援機能

高度情報環境活用を含めた各種研究情報の収集・蓄積・提供
電子ジャーナル、二次情報データベースの体系的・計画的収集及び利用支援
活動評価、研究成果公表の電子化支援
超高速計算活用研究環境提供
超高速ネットワーク活用研究環境の提供、国内外の研究交流環境の整備・活用支援

(3)地域活動支援機能

地域の図書館・博物館との連携・協力
ITに特化した産学公の連携推進
高度情報環境活用による大学間協力、生涯学習、地域活性化関連など各種の社会連携・地域連携推進への取り組み支援

(4)情報化推進コーディネーター機能

学内の各種業務システムの情報活用体制充実へ向けた戦略構築・推進

(5)情報基盤整備・運用機能

- 高速・大容量等、次世代を見据えたネットワーク環境の提供
- 包括的なネットワークの維持・管理及び関連する技術開発
- 情報基盤全般にわたるセキュリティの確保と付随技術の開発
- 幅広い情報基盤技術の利用促進・研究開発

〔運営〕

学術情報機構の運営体制の概略を、関係する委員会構成の観点から、図2に示します。

学術情報機構運営委員会を中心にして、情報セキュリティ委員会と情報基盤整備委員会を設置しました。前者は、ネットワークの管理、情報セキュリティに対応すべく山口大学の情報セキュリティポリシーの策定、ポリシーの遵守の励行、情報セキュリティに関する啓発・教育等に関する事項を扱います。後者は、大学全体の戦略的な情報化推進、セキュリティ対応も含めた情報環境整備に関する事項を扱います。例えば、各部局で計画される情報システム構築に関しては、その内容を提案していただき、セキュリティ対応の条件をクリアし、既設のシステムとの異同を調査し、効率のよいシステム構築を目指します。

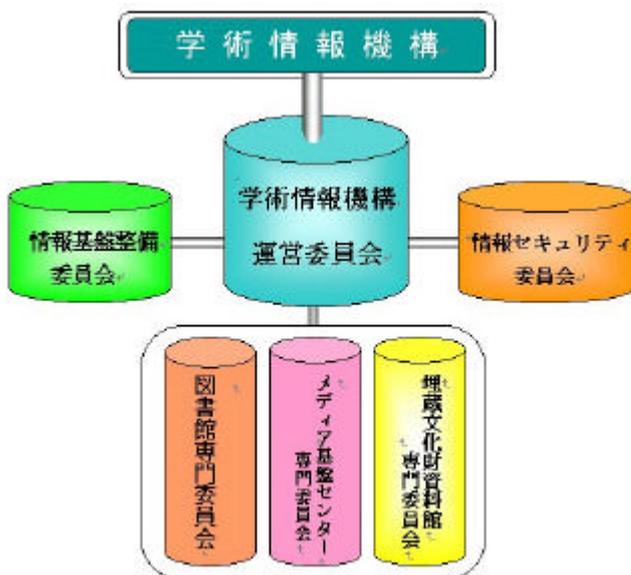


図2 学術情報機構の運営体制

これらの業務はいずれも全学的課題であり、機構長を補佐する2名の副機構長にそれぞれ分担していただき実施する予定です。

図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館の運営にあたっては、学術情報機構運営委員会を親委員会として、それぞれ実務的な対応が可能な専門委員会を中心に機能強化を図る方針です。

図書館、メディア基盤センター、埋蔵文化財資料館の運営体制ができるだけ同一形態になるようにしました。まず、3施設に館長・副館長制あるいはセンター長・副センター長制を取り入れました。次に、図書館については、分館を廃して、総合図書館(吉田地区)、医学部図書館、工学部図書館の3館で組織することとしました。3名の副館長をそれぞれの担当とし、メディア基盤センターの3センター3副センター長と対応させ、3キャンパスで図書館とメディア基盤センターの連携が密になり、学術情報機構としての動きが活性化されることを願っております。

3. 事務組織 - 意識改革

これまで述べてきたように、学術情報機構は、図書館、メディア基盤センター、および埋蔵文化財資料館を下部組織とする全学教育研究施設です。法人化スタート時点(平成16年4月)のこの機構の事務運営は、図書館スタッフ諸氏が中心的な役割を担うこととなります。これまでの附属図書館の本館および医・工学部分館の事務組織を一元化するとともに、これにメディア基盤センターおよび埋蔵文化財資料館の専任スタッフが加わって、これを1部2課体制(学術情報部、学術情報課と情報サービス課)で運用することとなります。

ここで図書館スタッフの皆様方-人-人による-意識改革が是非とも必要です。部課長さんはこれまでのような附属図書館事務部の部課長ではなく、学術情報機構の学術情報部の部課長さんとなります。スタッフの皆様方もこれまでの附属図書館職員ではなく、学術情報部の職員

ということになります。関係者の意識改革が先行して組織改革が進むことが理想ですが、私共の学術情報機構の場合は組織改革が一步あるいは半歩前進していて人の意識改革がそれに続いていくというのが実状かと思えます。法人化に伴う会計制度や就業状態の変化がある中での組織改革となりましたが、学術情報機構は明日がある改革です。自信を持って進めましょう。

表面上は3施設を束ねた機構のように見えますが、図書館とメディア基盤センターは3キャンパスに分散しており、それぞれのキャンパスからの要求も異なります。実質的には7施設(3図書館、3センター、1資料館)からなる機構と考えるべきだと思います。雑誌・書籍の提供1つとってみても、キャンパスによって要求が異なるのが現実です。改革に取り紛れて学生諸君や教職員の日々の教育・研究支援が疎かになここは図書館スタッフ諸氏の日頃の行動力に期待しております。

最後に組織面での課題をあげるとすれば、スタート時点の事務組織では、ネットワーク・システム対応の部分が手薄でありその強化が必要です。将来的には図3に示す学術情報事業部(1部3課体制)への展開を目指します。

4. 展望

学術情報基盤を一元的に統括する方向での議論が他大学でも話題になっているようです。図書館部門とメディア部門の一体化や図書館部門と情報化推進、メディアを一体化しようという構想が検討されているようです。その中で組織として図書館とメディア基盤センターを一体化するという山口大学の構想は、他大学に先じての創設だと思います。電子媒体と紙媒体の情報管理と提供をどう進めるか。情報セキュリティーを確保しながらいかに利便性を良くするか。学術情報基盤整備に関しては、今後の機構の展開いかにかかっています。また、現在の埋蔵文化財資料館を展示分野を広げることにより、博物館的構想への展開をはかることも可能です。

新しい学術情報機構の概念を定着させるためには、企画力と実行力が問われることになってゆくと思います。機構スタッフと力を合わせて一層の努力を重ねていきたいと思しますので、全学の皆様の学術情報機構に対するご理解とご支援・ご協力をお願い致します。また、機構のスタッフとしてスタートする図書館スタッフの方々には、大変な事態と見るよりは創造する喜びを感じる機会ととらえ楽しくやりましょう。そして、Plan Do Check Actionに挑戦する意識改革を心からお願いいたします。

(ふくまさ おさむ)

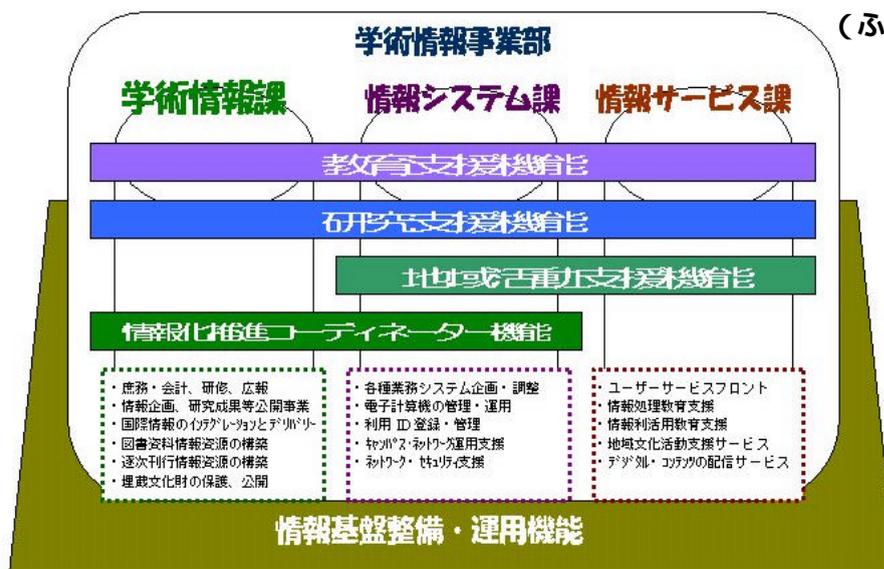


図3 学術情報機構の事務組織(将来構想)

ハワイ大学マノア校図書館訪問記

木越 みち

12月1日~7日、山口大学SD(スタッフディベロップメント)研修でハワイ大学を訪れ、図書館の見学及び職員へのインタビューを行いました。簡単にではありますがここにその内容を報告させて頂きたいと思います。

私が訪れたハワイ大学マノア校には Hamilton Library と Sinclair Library という2つの図書館があります。本館にあたる Hamilton Library は蔵書数が約320万点、Sinclair Library (組織的には Hamilton Library のサービス部門に属する) は DVD、ビデオ、CD などの AV コレクションを中心に資料約10万点といずれも規模の大きな図書館でした。

この報告では Hamilton Library を中心に述べたいと思います。館内で印象的だったのは、貸出返却カウンター、レファレンスカウンターとは別に Business Office という窓口があり、延滞料金の徴収や学外者への図書館利用カードの販売(年間\$65)、コピーカードの販売をしていました。コピーカードはコピー機以外に館内にあるプリンターやマイクロリーダー(いずれも有料)でも共通して使用でき、利用者にとって便利だと思いました。



レファレンスカウンター

(1Fの中央に位置し質問に訪れる利用者も多い)

図書の修理工房があることもこの図書館の大きな特徴です。ここでは傷んだ図書の修理だけでなく酸化した資料を専用の脱酸性装置で中和したり、中性紙の保存箱を作ったり、資料の保存に関する仕事を専門にしています。日本から取り寄せた和本のコピーもここで和綴りにされて書架に並んでいました。アメリカでもこのような修理工房を持っている図書館は少ないようです。



修理工房の様子

館内では所蔵資料の展示も行われていました。定期的に展示替えが行われ、図書館独自でテーマを決めることもあれば、学内で行われる講演会等に合わせて関連資料を展示することもあるそうです。前回行われた日本関連の貴重資料の展示では前述の修理工房での資料補修の様子もパネル展示し、資料保存のための寄付を募ったそうです。資料の展示が図書館活動の広報の役割も果たしており、おもしろく感じました。

Student Assistant と呼ばれる学生アルバイトが大勢いたことも印象的でした。例えば Hamilton Library のサービス部門では職員16人に対して学生アルバイトが80人おり、カウンター業務や図書の配架、利用者からの質問への対応など様々な仕事をしていました。彼らをマ

ネージメントすることも図書館員の大きな仕事の一つです。話は少しそれますが、ハワイ大学では図書館以外に施設や大学事務などでも学生アルバイトが大勢働いています。学生は大学のホームページを通して希望する職種や時給を選択しアルバイトの申し込みができます。大学にとっては人件費を抑えられ、学生にとっては職務経験を積めるという双方にメリットのある合理的なシステムでかなりうまく機能しているようでした。



展示スペース

少し専門的な図書館業務について言えば、閲覧、目録などの業務システムは「Voyager」を利用していました。これはアメリカでは一般的なシステムでアメリカ議会図書館でも利用されています。目録は OCLC から流用して作成しており、日本で NII 書誌を流用してローカル書誌を作成するのと似ています。Hamilton Library にはアジアコレクションがあるのですが、それらの資料（日本語・中国語・韓国語）の目録に関しては OCLC ではなく RLIN という別の書誌ユーティリティを利用しています。RLIN には JPMARC や TRCMARC などが含まれており、アジア言語の目録に向いているそうです。ただローカルの業務画面ではまだアルファベット以外の文字表記ができないので近々文字コードを UNICODE に変更したいとのことでした。文字表記の問題は山口大学の中国語資料にも当てはまり親近感を覚えながら話を伺いました。

雑誌の購入タイトル数は約 37,000 誌ですが、

その3分の1近くが電子ジャーナルです。最近、各出版社の電子ジャーナルを横断的に検索できるシステムを開発し、OPAC のようにタイトル、出版社、キーワードなどから電子ジャーナルを検索できるようになったそうです。また電子ジャーナルの他に電子ブックの利用も始まりました。山口大学では現在のところ学内 LAN に接続された端末からしか電子ジャーナルを閲覧できませんが、ハワイ大学では ID・パスワードを入力することにより学外の端末からでも論文の閲覧ができます。

今回訪れた図書館では 56 人の職員と、155 人のアルバイトが働いています。これだけ大きな組織で、また日本よりも個人の専門性の高い職場で、どのように図書館としての一体感を持っているのでしょうか。それにはやはり、月に数回あるミーティング、メールでの緊密な連絡など職員同士のコミュニケーションが大切だと多くの方が答えられました。研修で最も印象に残ったことの一つです。

今回の研修を機にハワイ大学図書館と山口大学附属図書館の間に絆が生まれ、今後この関係が発展していくことを願いつつ報告を終わらせていただきます。

(工学部分館情報管理係 きごし・みち)

ハワイ大学図書館ホームページ

<http://libweb.hawaii.edu/uhmlib/index.htm>



Hamilton Library

学生生活と図書館

「学生生活と図書館」

工学部博士課程 中 拓久哉

図書館と私の明確な出会いは小学校の図書館だったと記憶します。今思えば大きな図書館で、天井まで本が並べられ、古い本の匂いがする不思議なその”部屋”は幼い頃の私の好奇心を大変揺さぶりました。雨の日は運動場が使えないため友達と図書館に行き、飛行機や船、宇宙、海底、恐竜、昆虫などの写真や絵が沢山載っている百科事典を読んでは見聞きした事のない存在にびっくりしたものです。当然どのような本があるのか分からないので、書架に並んでいる題名の知らない本を無作為に取り出して少し読んでみて面白ければ借りることを繰り返していたのを覚えています。中学の図書館は小学より小さく図書の貸し出し等のサービスが行き届いていなかったため私にとって図書館利用の氷河期時代でした。高校に進学すると図書館は本の貸し借りをする場というより閉館までこぞって勉強する場でありました。試験期間が近づくと席を確保するのも困難となる混み様で、利用時間が短い、席が確保できない等、色々不平不満が出ていました。私の場合は授業をよくサボって図書館のソファで寛いでいたものですが。

さて、大学院生になった今はどうでしょう



工学部

か？図書の貸借りははじまり、文献複写依頼や学外図書の借用など主に研究活動で大変お世話になっていきますので、私にとって図書館は頼れる”知の味方”と言ったところでしょう。小学校の頃のように無作為に本を取り出すのではなく、目的の本の所在を予めインターネット上のデータベースで検索することができ、さらに貸出予約も可能です。中学校の頃とは違い図書館のサービスもよく、自動返却貸出機、コピー機やインターネット利用可能なPCなど情報の利用度を高める機器が設置されています。また高等学校の頃不便であった利用時間も申請することで24時間利用が可能となります。試験期間中の混雑はどうしようもないですが、他にも利用者の立場に立つ様々なサービスが提供されておりこれらのサービスを利用しないのは非常にもったいないでしょう。

このように私だけではなく図書館を利用する全ての人にとって今後も図書館が”様々な手段で有益な情報を提供してくれる知の味方”でありつづけて欲しいわけですが、どうすれば維持しさらに発展させることができるのでしょうか？。方法は色々あるでしょうが、私は意見箱を設置することが1つの突破口だと思います。利用者のニーズを常に意識する図書館であり続けて欲しいと願う一利用者の意見で本稿を締めくくらせて頂きます。

「学生生活と図書館」

教育学部大学院生 山本健太郎

私は山口大学附属図書館で、カウンター業務を週に3回程度させてもらっています。そのため、図書館の様子を利用者とは異なった立場で見ることができます。人を観察する趣味はありませんが、毎日のように来館する人、情報ラウンジを利用する人、ソファで読書に埋没して

いる人等、様々な人が図書館にはやってきます。その反面、全く利用しないという人もいます。図書館とは、学生生活の中でどのような位置付けなのでしょう。

一言で表すなら「学習の拠点」と言えると思います。大学は自主的に学ぶ場ですから、図書館を積極的に利用することで非常に重要な情報を提供してくれる場だと思います。現在は、インターネットでも全国の図書館が繋がっているため、図書館を通じての資料検索や情報収集は図書館内の枠を飛び越えて広がっています。そうした人と図書館という結びつき以外にも、図書館の果たしている役割はあると思います。それは人と人を結びつける役割です。文系から理系、芸術系に至るまでの幅広い分野の情報の結集が図書館です。様々な学部から学生が集まる場でもあります。一般の方の利用もあります。このような場所は大学中を探しても学生食堂と図書館くらいではないでしょうか。見知らぬ人同士での会話はないかもしれませんが、同じ空間で本を眺めているわけですから何らかの作用がそこには働いていると感じます。

自動ドアを抜けた空間は、活気にあふれた外の学生生活とはまた異なった時間が流れているのだと思います。今日も思い思いの時間を過ごすために学生がやってきます。学生への支援をしてくださる職員の方の体制も万全です。みなさんも思い思いの時間を過ごしに図書館に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

「看護実習と図書館」

医学部保健学科看護学専攻3年 佐原奈美

看護実習中は、よく図書館で夜を徹して、実習のための勉強をした。それができるのは、医学部の図書館が手続きを済ませれば、24時間自由に利用できるためである。実習中に図書館で勉強した思い出の内に、印象深い光景がある。それは徹夜で患者さんにさし上げるパンフレットをどうにか作り終えて、図書館を出たときに



医学部閲覧室

見た、朝靄の中の夜明けだ。連日の睡眠不足と昨夜の徹夜で疲れ果て、呆然とした心と身体にも、すがすがしい心地よさが感じられた。その日は実習の最終日であった。実習の最終週となる3週目では、今まで未消化になっていた問題がどんどん噴出してきた。それに加えて、退院なさる患者さんに対し退院指導のためのパンフレットを作成しなければならなかった。私は困り果てた。実習指導教官の先生による、私のパンフレット第1版の評価は惨憺たるものであった。どう改善すべきか、一向に思い浮かばず私は頭を抱えた。それを親切に助けてくれたのは、クラスメートであった。私は、彼女らに相談しながら、彼女らの作ったパンフレットを雛型にし、自分のパンフレットを作成した。また、毎日実習病棟の指導看護師の方から、懇切な助言を頂いた。実習最終週にも関わらず、患者さんの病態が把握できていなかったため、担当医の先生に丁寧に説明して頂いた。そして、粗を探せばきりが無いが、何とかパンフレットは完成し、私は退院指導を行うことができた。私が実習という大きな壁を乗り越えられたのは、これらの多くの人々の助けがあったからである。図書館へ行けば、同じように苦しみながらも、精一杯努力している実習仲間がいる。その真剣な姿に何度となく私のやる気が奮い起こされた。

そういう一週間を切り抜けて、後2時間も経てば、今日の実習が始まる。霞がかって判然としない校舎や付属病院に、始まったばかりの実習最終日への不安と希望を重ねたのであった。

「学生生活と図書館」

農学部 4年 柳谷泰夫

学生生活を送るにあたり、図書館を一度も利用せずに終える人はまずいないはずである。

私も例にもれず、幾度か図書館に足を運んではあるが、私が図書館を利用するときは、たいていの学生も同じかと思うがおおむね限られており、なにか目的を持って図書館に向かうことになる。講義でレポート課題が与えられたときと、試験期間にテスト勉強をするとき、それと、インターネットで調べ物をするときである。レポートを書くにあたって参考文献は不可欠だが、図書館ではその目的としている本がかならずといっていいほど見つかるし、また、テスト勉強にしても、その静かな空間で驚くほど時間効率がよくなる。ネットにしても、下宿には回線を引いていないため学内でしかつなげず、図書館なら平日は夜9：45まで利用できるのが魅力だからである。学生が勉強するのに最も有用な設備を図書館は備えている。

しかし、これらの目的以外で、新たに読みたくなるような本を探すために図書館に行くことがまずなくなってきた。というのは、図書館には学術書は多く蔵書されているが文庫本や

単行本などが少なく、学生が希望する新しい本もなかなか購入されない。新刊本を見つけても研究室貸出のものが多く私たち一般の学生が利用しづらくなっているなどが理由である。今すぐ読みたい本や安価な本であれば自分で本屋へ行き手に入れればいいのだが、講義のちょっとした合間にとか長期休みの間に読書を楽しもう、といった図書館の利用がこれではできにくくなってしまっている。もちろん学生の本分は勉強だし、図書館は大学の附属だからこういった有り方も自然だとは思いますが、もう少し学生の勉強以外の面での位置付けの「図書館」になってもいいのではないだろうか。



本館閲覧室風景

本学関係教官著作寄贈図書

寄 贈 者	著 者 名	書 名
早崎 峯夫 (農学部)	Ellen N . Behrend, Robert J. Kemppainen 著者代表 早崎峯夫訳	内分泌学
名島 潤慈 (教育学部)	名島潤慈著	臨床場面における 夢の利用 :能動的夢分析
谷光 太郎 (経済学部)	谷光太郎著	歌集ふしの川

トピックス

オープンライブラリー2003

附属図書館では、11月2日(日)開催の姫山祭(大学祭)に「オープン・ライブラリー2003」として、昨年に引き続き参加した。

展示の内容は、本学所蔵の貴重書等を公開する目的で本年度から始めた常設展示の、第1回「長州五傑のたどった道」(6月～9月)と第2回「幕末・維新長州歴史散歩」(10月～現在展示中)を集大成したものであり、貴重書等の展示とともに、パネルでトピックスを分かり易く解説した。また、これに関連した林勇蔵にまつわる郷土史ビデオ(図書館自主作成)の放映も行った。この他、大田・絵堂の戦いで実際に使われた鉄砲や、柱の弾丸痕も、美東町教育委員会のご好意で併せて展示する事ができ、一層の効果をおげることができた。調べものコーナーでは、誕生日の新聞を縮刷版から探して当日の出来事を調べたり、インターネットでの情報検索のサービスを行ったが、館員はその対応に大わらわだった。当日は、入館者は、1,222名、その内一般市民の方約300名で、大盛況だった。

<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/katudou/ebent/open2003/index.html>



Web of Science 講習会

11月25日(火)に、本館、医学部分館、工学部分館の3会場で、ISI社より矢田俊文氏を迎えて、Web of Scienceの講習会を開催しました。Web of Scienceは、論文の検索と同時に、その論文がどの論文で引用されているかの引用関係も検索できるユニークな文献検索データベースです。講習では山口大学の事例を基にした基本的な検索方法、さらに、引用文献の誤差、PubMed, Agricola, Science Directとの横断検索、検索結果の保存の仕方等、様々な機能について解説していただきました。

参加者数

本館 教職員 15 院生 7 計 22 名
医分館 教職員 15 名

工分館 教職員 12 院 11 学部 2 名 計 25 名

SciFinder 講習会

12月4日(木)本館、工学部分館の2会場において、化学情報協会より上野京子氏を講師に迎え、SciFinderの講習会を開催しました。SciFinderはChemical Abstracts Service(CAS)提供の化学情報データベースです。講習では、キーワードからの検索方法、化学構造からの検索方法、化学反応からの検索方法等、様々な機能について解説していただきました。

参加者数

本館 教職員 9 院生 25 学部 14 計 48 名
工分館 教職員 4 院生 7 学部 20 計 31 名



SciFinder 講習会風景

ProQuest 講習会

12月12日(金)本館において、ProQuest・インフォメーション・アンド・ラーニング社より、横溝聖子氏・小島陽介氏を迎えて、ProQuestの講習会を開催しました。ProQuestは、電子ジャーナル提供サービスで、特に社会科学、人文科学系が充実しています。講習では、検索インターフェイス言語の日本語への切替方法や、New York Times、USATODAY、Wall Street Journalのフルテキストへのアクセス方法等を解説していただきました。

参加者数

教職員 11 院生 8 学部 3 計 22 名



ProQuest 講習会風景

「日本の近代化に貢献した人々」

(1月8日(木)より展示中)

明治時代に日本の近代化に貢献した人々のなかから、山口県出身の人物をピックアップし、業績の紹介や、関連する資料を展示しています。

とりあげている人物は

「藤岡市助」電気の父と呼ばれた人。日本で初の電灯、電気鉄道等を設計し、東京電気東京電気株式会社(現在の東芝)の創設者。

「正木退蔵」工業教育に力を注いだ人。東京職工学校(東京工業大学の前身)の初代校長を務めた。

「片山東熊」明治時代の建築家。宮廷建築の大御所。東宮御所(旧赤坂離宮、現迎賓館)は彼の代表作。

「山田顕義」日本の近代法の基礎を確立した人。初代司法大臣。

「玉乃世履」明治初期に初代の大審院長(現在の最高裁判所長に相当する)



常設展示場

メールマガジンサービスの開始

工学部分館では、迅速な情報提供を目的としてメールマガジン「EL-メールマガジン」の配信サービスを開始しました。初期配信範囲は工学部教職員、学生、院生ですが、下記ページより購読登録ができます。

<https://ml.cc.yamaguchi-u.ac.jp>

/mailman/listinfo/el-lbt/

電光掲示板の設置

工学部分館では電光掲示板を設置しました。「本日の閉館時間」「今週の休館日」「講習会のお知らせ」等のインフォメーションを毎日更新して、流しています。



会議

学外

- 15.10. 2 大学図書館等関連事業説明会～
NII Library Week 2003 (於：九州大学)
- 15.10.9-10 平成15年度国立大学図書館協議会中国四国
地区協議会実務者会議(於：徳島大学)
・法人化をとりまく諸問題について
- 15.11. 7 平成15年度国立大学附属図書館
事務(部・課)長会議(於：広島大学)
・国立大学法人化後における国立大学図書系
職員の採用方法について
・図書管理要領等の整備について
- 15.11.13-14 第39回日本医学図書館協議会
中国四国部会総会(於：徳島大学)
- 15.12. 2 電子ジャーナルの取扱いに関する担当者会議

(於：学術総合センター)

- 16. 1.22 平成15年度国立大学附属図書館
事務部長会議(於：富山大学)
・法人化後の図書館の位置づけと
事務組織体制等のあり方について
- 16. 2.13 NACSIS-CAT/ILL講習会担当者会議
(於：国立情報学研究所)
- 16. 3. 5 平成15年度山口県図書館協会第3回理事会
(於：山口県立山口図書館)

学内

- 15.10.3 第3回学術情報基盤資料整備WG
- 15.10.27 緊急対応事項検討全体会議
- 15.11.17 第3回広報編集委員会
- 15.12. 2 第1回学術情報機構運営委員会
・学術情報機構の運営について

- ・中期目標・中期計画について
- ・委員会規則について
- 15.12.24 第2回学術情報機構運営委員会
- ・学術情報機構関連の規則について
- 16.1.5 持ち回り附属図書館運営委員会
- 16.3.2 第115回附属図書館運営委員会
- ・法人化後の図書館運営について
- 16.3.4 工学部分館図書WG

研修

- 15.10.15-16.1.7 平成15年度山口大学
英会話(中級)研修(於:山口大学)
参加者:高井図書情報係員
- 15.10.23-24 第44回中国四国地区大学図書館研究集会
(於:松山大学)
参加者:金重総務主任、
高田情報サービス主任(医)、
三角情報サービス係員(工)
- 15.10.27-29 平成15年度山口大学等係長研修
(於:国立山口徳地少年自然の家)
参加者:赤野図書情報係長
- 15.11.11-14 平成15年度大学図書館職員講習会
(於:大阪大学)
参加者:守永メディア情報係員
- 15.12.8-9 第16回国立大学図書館協議会シンポジウム
(於:神戸大学)
参加者:赤野図書情報係長
- 16.1.14-16 平成15年度学術ポータル担当者研修
(於:国立情報学研究所)
参加者:岡田メディア情報係長
- 16.1.19-21 平成15年度学術情報リテラシー教育
担当者研修(於:学術総合センタービル)
参加者:西垣情報リテラシー係員

編集後記

法人化を機に附属図書館も学術情報機構として実質的なスタートを切ることとなる。この学術情報機構について福政館長に機能や事務組織等をご紹

- 16.2.26 山口県図書館協会・山口県大学図書館協議会
共催研修会(於:山口県立山口図書館)
参加者:藤本情報リテラシー係長、
高井図書情報係員、
金田雑誌情報係員、
森永利用者サービス係員、
川端利用者サービス係員、
西垣情報リテラシー係員、
堂迫情報リテラシー係員、
守永メディア情報係員
- 16.3.4 平成15年度山口県図書館協会
参考業務部会研修会
(於:山口市立図書館、山口県立山口図書館)
参加者:藤本情報リテラシー係長、
堂迫情報リテラシー係員、
原田情報リテラシー係員
- 16.3.8 名古屋大学電子図書館国際ワークショップ
(於:名古屋大学)
参加者:岡田メディア情報係長
吉光情報管理係長(工)

人事異動

- 15.10.15
辞職 山根 久枝 情報サービス課利用者サービス係
- 15.10.16
採用 川端 みのり 情報サービス課利用者サービス係
- 15.11.30
辞職 村上 章徳 情報管理課長
- 15.12.1
配置換 古賀 幸成 情報管理課長(情報サービス課長)
昇任 大元 利彦 情報サービス課長
(岡山大学附属図書館情報管理課資料受入係長)

介いただいた。その中でも語られていましたが、組織が変化する。それは意識も変える大いなるチャンスとなるはずである。(0)